

優秀賞



設計者

児野 登

長野県建築士会、(株)アーキディアック 代表取締役

児野 登

共同設計者

土本俊和

長野県建築士会、信州大学学術研究院工学系 教授



土本俊和

公共施設

長野県東御市

海野宿滞在型交流施設 うんのわ

構造・階数

木造在来軸組工法
地上2階

敷地面積

1,565.71㎡

建築面積

336.19㎡

延床面積

496.27㎡

竣工

平成26年3月31日



A



B

選評

長野県東御市の千曲川に近い海野宿街道に沿った民家のリノベーションである。街道沿いには、明治から昭和にかけて建てられた街並みが良好に保存されており、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。しかしながら既存の街並みや民家は放置されたままで、ほとんど手が加えられていない。そこで東御市は、この街並みを観光資源として活性化させるための拠点として、街道の中央付近に位置する古民家を買取り、宿泊と飲食施設にコンバージョンすることを企画した。

敷地は東西に細長く、東に向かって緩やかな上り勾配になっている。既存建物は、西側の街道側に、前庭を介して2階建ての主屋、その先の中庭を挟んで南北両側に水回りと作業場、その奥に土間を持った2階建ての副屋があり、さらにその奥は畑という奥行のある分棟配置である。設計者は、既存の民家の外観と形状

を保存しながら、基礎を補強し、既存の木構造を活かした耐震補強を施し、スロープや多機能トイレを設置するなど、ユニバーサルデザインを考慮した、細やかな大規模改修を行なっている。

宿泊客は、主屋の土間を通り抜けて一旦中庭に入り、中庭に面した受付棟でチェックインし、渡り廊下を戻って主屋をコンバートした客室に入る。宿泊客を含む食事目的の客は、中庭から緩やかなスロープを上り、副屋をコンバートしたレストランに向かう。客室からは前庭と中庭、レストランからは中庭と裏庭が見える。レストランの奥には裏街道から入る駐車場が置かれている。

隅々まで修景された快適な中庭を囲む精妙な建物配置と、既存の木構造を最大限に活かしながら、新しい機能へと転換させた、繊細で濃密な考え抜かれたリノベーションである。

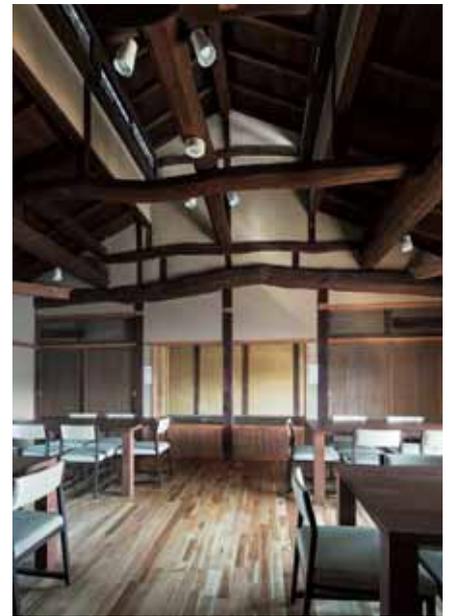
(難波和彦)



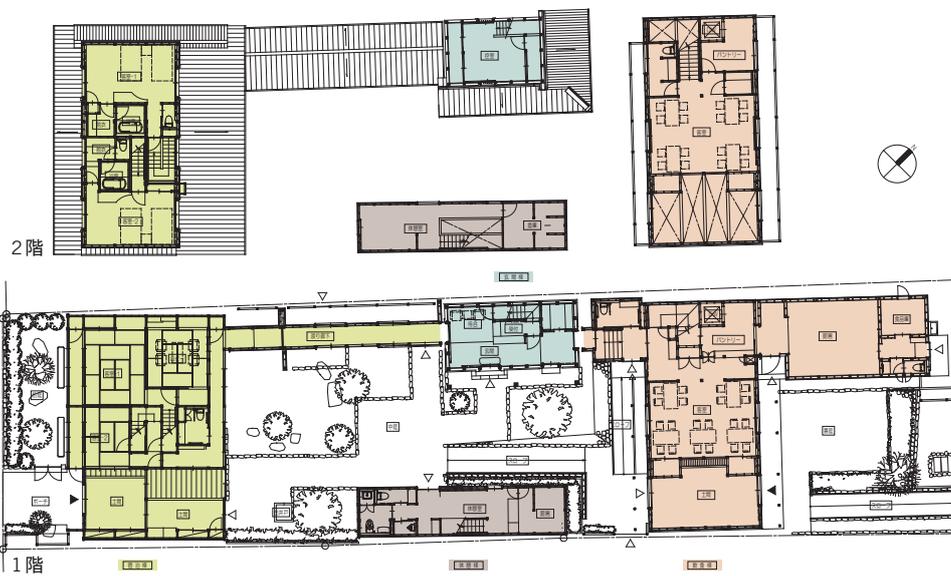
C



- A 宿泊棟南東側外観
- B 宿泊棟1階土間
- C 中庭南側外観(夜景)
- D 宿泊棟2階客室
- E 飲食棟2階客室
- F 飲食棟1階客室



D



1階
平面図



F